

2021年総合生活改善の取り組みについての談話

1. 取り組み経過

<取り組みの方向性>

- 自動車総連は、1月14日の第88回中央委員会において、『新たな時代に向けて 高めよう！職場の力』のスローガンのもと、「今次取り組みを通じて、職場の力を高めることで、産業の変革期やコロナ禍に負けない職場をつくり、自動車産業の永続的な発展を目指す」との思いを果たすべく、2021年総合生活改善の取り組みを進めていくことを確認した。

<要求状況>

- 「個別賃金要求」は、中堅労働者で615単組、若手労働者で337単組となっており、「絶対額を重視した取り組み」が着実に進んでいる。
- 「平均賃金要求」は、賃金カーブ維持分と賃金改善分を合わせた総額の要求額(単純平均)は5,985円となっている。要求を提出した単組のうち92.2%にあたる926単組が賃金改善分を要求している。
また、人数規模の小さい単組ほど賃金改善分の要求額が高い傾向にある。
- 目指すべき賃金の絶対水準、あるいは自分達の職場状況を踏まえた賃金課題や職場課題を基に要求・交渉を行っているケースが随所に見られる。また非正規雇用で働く仲間についても、継続して賃金引き上げ要求を行っている。
- 「年間一時金」は、要求月数(単純平均)は4.67ヵ月となっている。新型コロナウイルスの影響等により各社とも厳しい業績見通しの中、組合員の一年間の努力・頑張りなどに報いるとともに、生活の安心・安定感を踏まえた力強い要求となっている。
- 「働き方の改善」は、通年の「労働諸条件改善の取り組み」も含め、ムリ・ムダの削減、生産性の向上といった「産業の変革期に負けない働き方」や、ITツールの活用、職場環境の改善といった「コロナ禍を踏まえた新たな時代の働き方」など、職場の課題に応じた取り組みを多くの単組で推進している。
- 要求全体として、各単組が自動車総連の方針に則り、賃上げを軸とした人への投資や新たな時代の働き方などに積極的に取り組むことで、「働く者の総合的な底上げ・底支え、格差是正」を実現するという強い思いが表れていると受け止める。

<交渉状況>

- 2月17日の統一要求日以降、交渉を通じ議論を重ねてきた結果、各単組における賃金課題・職場課題を解決していくため、また変革期にある自動車産業の厳しい環境を乗り越えるための「人への投資」の必要性そのものについては、労使の認識が合っているものと受け止める。
- しかしながら、経営側は自動車産業の変革期や新型コロナウイルスの影響等による企業の業績状況、賃上げによる中長期の競争力への影響などを背景に、極めて厳しい態度を取り続けた。
- こうした厳しい状況を打ち破り、全ての単組の「最大限の回答」の引き出しに繋げるべく、3月13日の第3回中央戦術委員会において「回答引き出しに向けた基本態度」を確認し、自動車総連一体となって最終盤の交渉を追い上げていくこととした。

2. メーカー一部会主要 12 単組の回答状況（午後 3 時現在）

<月例賃金>

- 前述の通り厳しい交渉環境となる中、「自らの要求」の必要性と、組合員が果たしてきた労働の質的向上、そして自動車産業の変革期やコロナ禍を乗り越えていくという強い決意をもって全ての単組が回答指定日ギリギリまで交渉を押し込んできた。
- 要求・回答の内容は各単組の状況により異なるものの、各単組の踏ん張りにより、それぞれにとっての「最大限の回答」を引き出すことができた。コロナ禍における大変厳しい交渉環境の中で、「賃上げを軸とした人への投資」の流れを継続できたことは、最大限の成果と受け止める。

<年間一時金>

- 新型コロナウイルスの影響等により業績見通しが非常に厳しい中で、一年間の組合員の努力・頑張りと成果に報い、また組合員の安心・安定感の確保に繋がる年間での回答を引き出すべく、各単組が粘り強く最後の最後まで取り組んだ結果と受け止める。

<働き方に関する取り組み>

- 自動車産業の変革期やコロナ禍による変化を踏まえ、各職場の課題解決や生産性の向上、そして新たな時代の働き方の実現に向けた積極的な議論が行われ、職場課題の解決に向けた取り組みを加速させることができた。
- また、今後も専門委員会などの場を通じ課題解決に向けた議論を継続していく単組も多く、そうした取り組みを通じ、組合員の働きがいの向上や企業の競争力強化、そしてその先にある産業の持続的な発展に繋げることを期待する。

<非正規雇用で働く仲間に関する取り組み>

- 各単組の要求にあわせ、処遇改善などの回答を引き出しており、同じ職場で働く仲間の意欲・活力および一体感の向上や、同一価値労働同一賃金の取り組み前進に繋がるなど、労働組合の社会的役割を果たしたものと受け止めている。

<現時点での受け止め>

- 総じて大変厳しい交渉環境の中、自動車産業の変革期およびコロナ禍という危機を乗り越えていくための充実した議論を行い、将来に繋がる価値ある回答を引き出すことができた。
- それぞれの単組による「目指すべき賃金水準」「目指すべき働き方」の実現に向けた取り組みを通じ、組合員の意欲・活力の向上や職場力の強化に繋がったものと受け止めている。
- こうした主要単組の「最大限の回答」を確固たる土台として、これから本格化していく中堅・中小単組の回答引き出しに向け自動車総連一体となって全力で取り組んでいくことで、自動車総連が目指す「働く者の総合的な底上げ・底支え、格差是正」を実現させていきたい。

3. 今後の進め方

- 今後、中堅・中小単組を中心に、車体・部品部門、販売部門、輸送部門、一般部門がヤマ場を迎えることになる。3月17日（水）から3月26日（金）の間で集中的に「最大限の回答」を引き出すとともに、自動車総連全体では3月末決着を目指し取り組み、遅くとも4月末までには全ての単組での決着を図っていく。

以上